

## イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/6/25作成 (株)新出光

## 【概況】＜原油相場引き続き下支えされ＞

●18日、連邦公開市場委員会(FOMC)で、2023年中に事実上のゼロ金利政策を解除し、2回利上げする想定を示しました。ドル建てで取引される商品の割高感が強まり、一時下落しましたが、石油輸出国機構(OPEC)経済委員会が米国の石油生産に焦点を当てた外部代表者らとの会合で、今年の米シェールオイル供給の伸びは限定的との見解が原油の買いを支えました。

●21日、欧米各国では新型コロナウイルスワクチンの普及に伴い行動規制が緩和され、夏のドライブや行楽シーズンに伴い、エネルギー需要見通しに楽観的な見方が広がり、原油が買われています。また週間在庫統計で原油在庫の減少が見込まれていることも需給引き締め観測につながり、原油を支えたようです。

●22日、「OPECプラス」は7月1日の会合で、8月からの段階的な増産について議論する見通しとなっています。具体的な増産規模はまだ固まっていないようですが、足元の需給引き締めや需要拡大に対する楽観的な見方から、市場の反応は限定的でした。

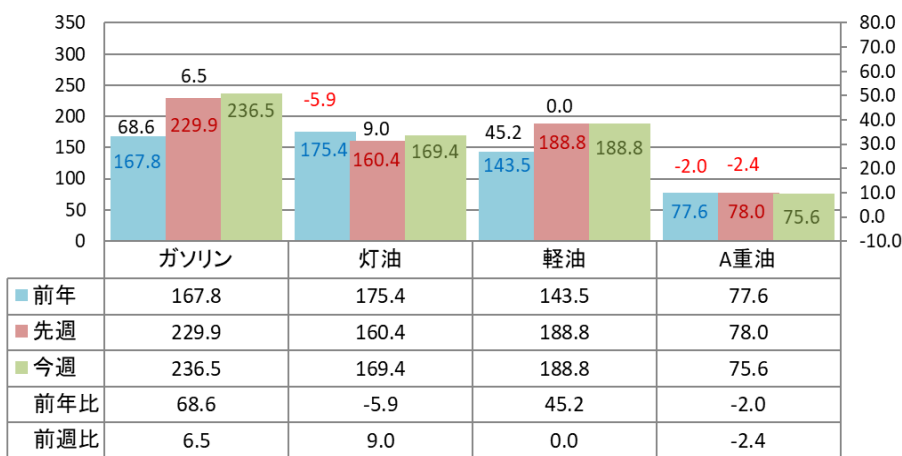
●23日、米石油協会(API)が発表した国内原油在庫は市場予想を大きく上回る取り崩し幅となったほか、米エネルギー情報局(EIA)が午前公表した週報でも、18日時点の国内原油在庫は前週比760万バレル減の市場予想(390万バレル減)の約2倍で、5週連続のマイナスとなり、全体の在庫は2020年3月20日時点以来の低水準でした。ガソリン在庫も80万バレル増の予想に対して290万バレル減と、燃料需要の回復期待を後押しする内容となったことで、相場はWTI原油で一時74.25ドルの高値を付けました。

●24日、新型コロナウイルスワクチンの接種が進む中、米欧で経済正常化の動きが広がり、企業活動や需給面での回復が見え始めていることが引き続き相場を支援しています。また米国がイランとの核合意に復帰しても、イラン産原油輸出に対する制裁がすぐに解除されるか懐疑的な見方が浮上していることも相場を下支えしているようです。

6月25日 17:00現在 WTI原油 73.50ドル 為替 1ドル 110.74円

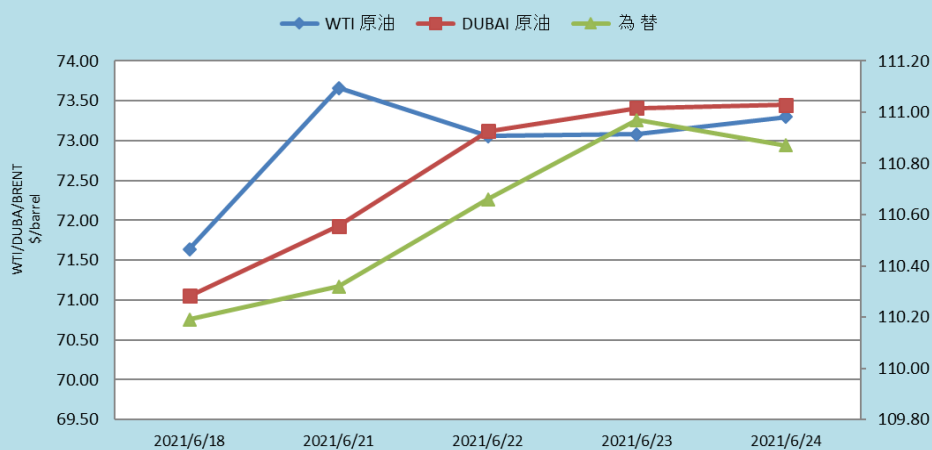
国内石油製品在庫 6月19日時点

単位万KL



WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ

単位 円



## 次回元売変動予測

7/1～ 元売変動予測

|      |   |           |
|------|---|-----------|
| ガソリン | ➡ | +1.0～+1.5 |
| 灯油   | ➡ | +1.0～+1.5 |
| 軽油   | ➡ | +1.0～+1.5 |
| A重油  | ➡ | +1.0～+1.5 |
| LSA  | ➡ | +1.0～+1.5 |

## 【製品卸価格】＜油種やエリアによる市況格差広がる＞

《今週》今週の元売り仕切り改定は「+1.0円」の値上げ改定でした。改定が+1.5円の値上げと予測していたディーラーがいたことや枠の消化を進めたディーラーが少しずつ見受けられることからガソリンについては市況が持ち上がりました。ただ、中間油については、手持ち枠を抱えているディーラーが多く小幅での市況の上昇に留まりました。月間リンクの玉の販売だけでなく、週決め玉でも他社に合わせて価格対応し、枠の消化を優先した販売も見られますので、上値が重そうです。

《6月26日以降》次回の元売り改定は、現状の原油コストで「+1.0～+1.5円」の値上げ予測です。原油相場の上昇に歯止めがかからず、次週も値上げ予測のため、5週連続の値上げ改定となりそうです。月間リンク玉を扱う広域のディーラーは枠の消化を終え見積りの提示を非表示や高めの価格に設定していますが、まだまだ枠消化の目途が立っておらず、安値のまま価格を維持しているディーラー多いです。7月の月替わりのリセット値上げが大幅になることを見込んで、需要が少ない状況下ですが、週末から週明けにかけて仮需が発生すると思われます。

※現段階の原油コストによる予想です。

## 【次世代エネルギー】＜合成ガス需要拡大＞

合成ガスは水素と二酸化炭素で構成される混合ガスで、天然ガスや石炭の他に残渣油や廃プラスチックも原料として用いられており、再生可能な燃料の使用を促進する政策や環境問題への意識の高まりから、需要が増加しています。鉄道や船舶、輸送燃料として扱われる液化天然ガス(LNG)や圧縮天然ガス(CNG)の製造をする際の合成天然ガスの製造に合成ガスが使用されており、エネルギーコストの低さや安定性の高さからも注目されています。また建設機械の燃料として、CO2の排出軽減でき、環境負荷の少ないクリーンな軽油代替燃料として日本国内でも近年注目されているGTL燃料の製造にも使用されており、世界中で合成ガス市場がさらに拡大していきそうです。

[出典] ①<https://www.chiyodacorp.com/jp/service/gtl/>  
 ②<https://www.value-press.com/pressrelease/273887>